



令和6年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子

学校だより 12月



インクルーシブ教育の目指すもの

特別支援教育コーディネーター 小幡 裕一

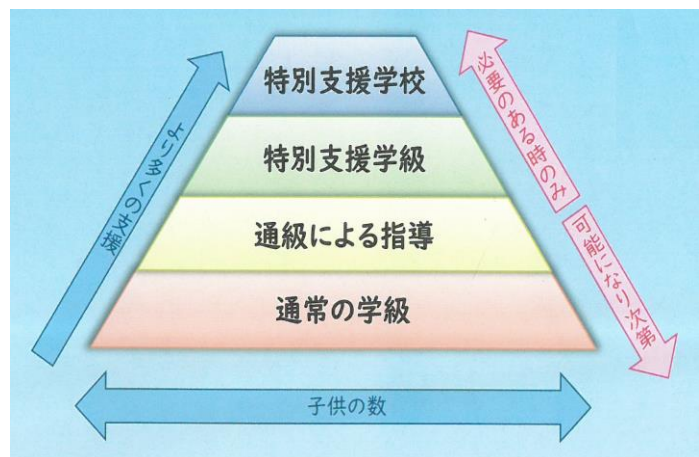
「インクルーシブ教育システム」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。障害の有無や人種、病気、特性といったさまざまな違いや課題を超え、一人一人の特性に応じた学習環境を整え、全ての子どもと一緒に学ぶことを目指す教育体制を指す言葉です。「インクルーシブ (inclusive)」とは、「包括的な」「包み込む」という意味であり、多様性を認め、「全ての子供を包摂する教育」を目指す考え方で現在、世界のあらゆる国で、この教育理念の実現に向けた取組が求められているところです。

話は変わりますが、今では見かけることも少なくなった「金平糖」の作り方をご存じでしょうか。中華鍋を大きくした銅鍋にザラメを入れ、熱しながら鍋を回していきます。そこに糖蜜を振りかけながら少しずつ大きくしていきます。この工程を何日も何日も繰り返し、3日目頃から角のような凹凸が自然に出てくるのです。更に同様の工程を約2週間繰り返ししていくことであの独特の形の金平糖が出来上がるというわけです。

子供の発達を金平糖に例えるわけではありませんが、自然にゆっくりと大きくなっていくあの凹凸と子供の成長は重なる部分があり、誰もが多かれ少なかれ発達の偏りを抱えているものです。その偏りの多くは年齢とともに目立たなくなっていくものですが、子供の頃は強みは自信に、弱みは不適応感へとつながっていきます。ですから、「ただ同じ場所で教育すればいい」というわけではなく、自身の偏りや特性を自覚できにくい子供たちだからこそ、一人一人の特性に応じた学習環境を整えていくことが子供たちの学びを支える前提となるのです。

現在、小学校段階では右下の図にあるような4つの学びの場が保障されています。通常の学級においても、どの子にも学びやすい環境づくりがなされ、更に通級による指導では、通常の学級に在籍しながら、個に応じた指導、支援を受けることができます。また、特別支援学級では、一人一人の特性に応じたカリキュラム編成が可能となり、通常の学級の子供たちと一緒に学ぶことも可能です。学校では、全ての子供たちの自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに的確に応える支援や指導ができるよう、多様で柔軟な仕組みを整備することに取り組んでいます。

全ての子供が「学校が楽しい」と思える学校づくりを目指し、学校と家庭が連携を密にしながら進んでいきたいと思っております。お子さんのことで気になることがありましたら、いつでも学校へご相談ください。



連続性のある学びの場(富山県教育委員会)